

(総括評価表Ⅲ)

“安心を実現する”～「いつまでも楽しく、元気で、安心して暮らせるくまもと」をめざします～

1 実現に向けて推進する戦略

戦略6 長寿を楽しむ
～長寿を恐れない社会から長寿を楽しむ社会へ～

- ① 長寿を楽しむくらしづくり
- ② 長寿の安心を実現するための体制づくり

戦略7 子どもの育ちと若者のチャレンジを応援
～熊本の未来の元気をつくります～

- ① 子どもの健やかな育ちと子育ての応援
- ② 若者のチャレンジの応援

戦略8 障がいのある人が暮らしやすい熊本
～ともに支え、ともに担う社会をつくります～

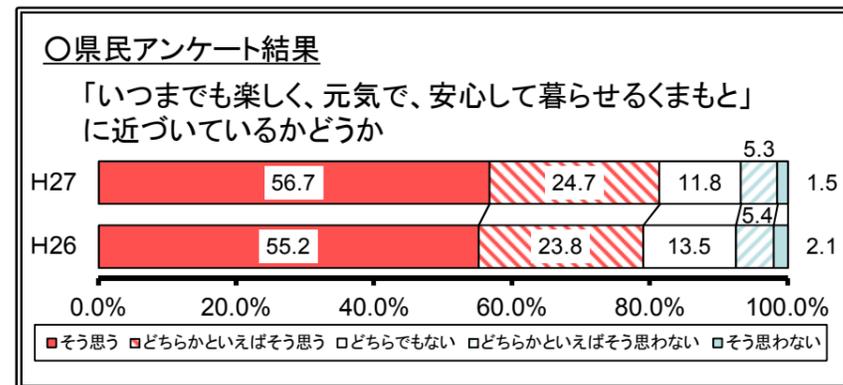
- ① 障がいのある人の暮らしの応援

戦略9 人が人として互いに尊重される安全安心な熊本
～一人ひとりを大切に、一人ひとりが大切にされる安全安心な社会を実現します～

- ① 一人ひとりが尊重される社会の構築
- ② 安全安心な社会の構築

戦略10 災害に負けない熊本
～熊本の防災力を高めます～

- ① 災害に負けない社会インフラ、ソフト対策の強化



2 戦略指標の動向

※ 下表の「指標の動向」・「達成状況」欄は目標値の種類に応じて次により整理。

目標値の種類	「指標の動向」	「達成状況」
戦略策定時から最終年度までの累計値で見ていく指標	→	☆
最終年度(単年)の実績値で見ていく指標	→	★

指標	戦略策定時(年度)	H24実績値(H25評価)	H25実績値(H26評価)	H26実績値(H27評価)	単位	指標の動向(策定時との比較)	目標値(H27年度)	種類	達成状況	
戦略6	① 地域の緑がわ箇所数	276か所(H23)	380	443	520	か所	→	500か所	累計	☆
	シルバーインストラクター登録人数	—	38	65	82	人	→	120人	累計	
	認知症サポーター活動が活性化している市町村数	12市町村(H23)	27	36	43	市町村	→	45市町村	累計	
	② 訪問看護ステーションがある市町村数	31市町村(H23)	31	42	44	市町村	→	45市町村	累計	
	【補】県内の自治体病院における常勤医師数	316人(H23)	318	321	326	人	→	336人	累計	
戦略7	① 放課後児童クラブの実施市町村数	39市町村(H23)	40	40	40	市町村	→	41～45市町村	累計	
	保育所入所待機児童数	194人(H23)	582	678	659	人	→	0人	単年	
	住民が病児・病後児保育のサービスを利用できる市町村	20市町村(H23)	25	25	27	市町村	→	45市町村	累計	
	【補】くまもと子育て応援の店・企業登録数	2,442件(H23)	2,708	2,773	2,800	件	→	3,200件	累計	
	② 就職支援を希望する高卒未就職者の就職決定率	97.4%(H23)	100	100	93.8	%	→	100%	単年	
	【補】若者サポートステーション進路決定者数	291人/年(H23)	434	545	568	人	→	400人/年	単年	★
戦略8	① 障がい者の日中活動系サービスの利用量(定員数)	8,709人/日(H23)	9,785	10,600	10,920	人/日	→	9,500人/日	単年	★
	発達障がい早期発見のための問診票を用いた健診の実施市町村数	9市町村(H23)	45	45	45	市町村	→	45市町村	累計	☆
	障がい者の就職件数	1,265人/年(H23)	1,558	1,950	2,169	人	→	1,600人/年	単年	★
戦略9	① 民間企業における管理職(係長以上)に占める女性の割合	23.4%(H23)	24.6	23.5	26.8	%	→	26.0%	単年	★
	【補】自殺予防ゲートキーパー養成者数	240人(H23)	465	684	857	人	→	840人	累計	☆
	【補】県の審議会等における女性委員の登用率	37.2%(H23)	37.1	36.7	37.2	%	→	40%	単年	
	【補】育児参加に係る休暇を取得した男性職員の割合	76.7%(H22)	83.5	76.8	78.1	%	→	100%	単年	
	② 街頭犯罪を中心とした14罪種の認知件数	10,423件/年(H20～H23平均)	8,400	8,352	6,650	件	→	過去4年間の平均認知件数を下回る	単年	★
戦略10	① 24時間交通事故死者数	86人(H23)	82	82	76	人	→	56人以下	単年	
	交通事故死傷者数	13,524人(H23)	12,555	11,307	9,726	人	→	11,000人以下	単年	
	消費生活相談ネットワーク体制整備市町村数	10市町村(H23)	23	43	45	市町村	→	45市町村	累計	☆
	② 自主防災組織率	55.2%(H23)	61.6	70.8	76.7	%	→	80%	累計	
	① 県立学校の耐震化率	83.1%(H23)	93.1	97.2	97.7	%	→	100%	累計	
市町村立小中学校施設の耐震化率	82.8%(H23)	94.4	97.3	98.5	%	→	100%	累計		
私立学校施設の耐震化率	58.9%(H23)	62.5	68.8	74.1	%	→	75%	累計		
【補】県防災情報メールサービスの登録件数	21,355人(H23)	25,032	25,934	27,809	人	→	40,000人	累計		

3 平成26年度の主な成果・今後の課題や方向性

(総括評価表Ⅲ)

平成26年度の主な成果

今後の課題や方向性

【戦略6】長寿を楽しむ～長寿を恐れない社会から長寿を楽しむ社会へ～

「くまもとスマートライフプロジェクト」を開始し、県民等の健康づくりに協力する20企業等を応援団として登録したほか、歯及び口腔の健康づくりのための保育所・幼稚園でのフッ化物洗口実施率が69.9%に上昇し、小中学校でも実施率が70.5%と大幅に上昇するなど、健康寿命を延ばす取組を推進した。

また、条件不利地域で新たに訪問看護サービスを行う事業所を支援するなど、地域医療体制の整備を進めた。さらに、地域の縁がわの目標数を達成し、交流や見守り、安否確認の場が増加したほか、認知症サポーターの養成率が6年連続日本一となるとともに、県内2市による認知症の早期発見に向けた支援の実施など、認知症医療体制の新たな「熊本モデル」の構築を推進し、安心して暮らせる環境づくりを進めた。

県民の健康づくりを支援するため、健康づくり活動等の情報を発信し、「くまもとスマートライフプロジェクト応援団」を増やすなど、健康寿命を延ばす取組の普及啓発を図っていく。

さらに、地域医療を担う医師の確保や条件不利地域等の訪問看護サービスの提供体制の整備とともに、認知症の早期発見・早期対応の体制づくりに向けて関係機関等の連携促進が必要である。加えて、介護職・保育士等の処遇改善などにつながる広報啓発や支援などを進めていく。



企業等への啓発推進セミナー
〔くまもとスマートライフプロジェクト〕

【戦略7】子どもの育ちと若者のチャレンジを応援～熊本の未来の元気をつくります～

子育て支援では、7市町村・15カ所への整備補助で保育所の定員が1,090名分増加し、また、合志市が3施設で定員を増やし、143人分の家庭的保育が実施されたほか、病児・病後児保育の事業実施の働きかけにより、前年比2市町村増の27市町村で実施された。

若者のチャレンジを応援するため、県立高校全校でインターンシップを実施し、体験生徒と受入事業所とも増加したほか、若者サポートステーション（3カ所）を支援し、進路決定者が4%増の568人に伸びるなどの支援を行った。また、保育園等（9団体）が農業体験等を実施し、165.5アールの耕作放棄地が再生した。

保育所の定員増により待機児童数は減少したが、市町村が計画に沿った保育サービスの提供ができるよう、助言や情報提供により支援を実施していく。また、病児・病後児保育施設は、利用児童数が季節により変動するなど、安定的な運営が難しい面があるため、周辺市町村との共同実施の働きかけ等を進めていく。また、キャリア教育の重要性の周知や、ニート状態の早い段階での支援などを適切に進めるとともに、児童等の農業体験の機会を拡充していく。



〔認定こども園移行に伴う定員増への支援〕



〔家庭的保育者を養成する研修〕

【戦略8】障がいのある人が暮らしやすい熊本～ともに支え、ともに担う社会をつくります～

就労の推進では、10-ワークを通じた障がい者の就職件数が11%増の2,169件となり、目標を達成するとともに、特別支援学校の就職希望者の就職率が1ポイント増の70.8%となったほか、本県における障がい者優先調達方針により、調達実績が前年度比72%増の24,617千円に増加した。また、24時間対応の相談支援事業所が前年比6カ所増の28カ所、県立熊本かがやきの森支援学校の開校、県立障がい医療センターによる地域医療機関への専門支援、県立こころの医療センターによる「こころの思春期外来」の診療体制強化等、地域での暮らしを支える体制の整備も進展した。

障がい者の就労推進のため、関係機関との円滑な連携・取組の推進や、モデル事業の効果検証等を進める。また、グループホームの整備や、在宅移行支援の継続、24時間体制の相談事業や日中一時支援事業未実施の市町村への働きかけ、新たな特別支援学校の整備、日中一時支援事業所で医療的ケアが受けられるための支援や体制の充実等を進める必要がある。



〔熊本かがやきの森支援学校〕



【戦略9】人が人として互いに尊重される安全安心な熊本～一人ひとりを大切に、一人ひとりが大切にされる安全安心な社会を実現します～

一人ひとりが尊重される社会に向け、自殺予防ゲートキーパー養成者数や、民間企業の管理職に占める女性の割合が目標値を達成等の成果があがったほか、都道府県初となる、産官学が連携して取り組む「女性の社会参画加速化戦略」を策定した。

安全安心な社会をめざし、性暴力被害者のためのワトップ支援センター設置に向けた県民等への啓発のほか、官民一体となった取組により刑法犯認知件数が11年連続で減少した。さらに、「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」の制定などの取組を進め、交通事故死傷者数も減少した。また、広域連携での消費者相談窓口設置等の市町村の取組が進むとともに、高病原性鳥インフルエンザに対して、関係機関と連携し、最速日程での終息につながった。

県自殺対策行動計画に基づき、事前予防、危機対応等の段階ごとに関係機関と連携し、引き続き取組を推進する。また、女性のキャリア形成等の支援に向け、関係機関等との連携により、職場環境整備等を促す効果的な取組を進める。

安全安心な社会に向け、性暴力被害者のためのワトップ支援センターの設置・運営を図るとともに、自転車の安全利用に関する啓発など、交通事故防止・犯罪抑止をめざし、関係機関等及び地域住民と連携・協働した取組を進める。さらに、消費者保護に関し、問題の多様化や複雑化に対応できる教育・啓発、支援を進めていく。



〔産官学による「熊本県女性の社会参画加速化会議」の設置〕

【戦略10】災害に負けない熊本～熊本の防災力を高めます～

防災情報メールサービスの登録者数、自主防災組織率が着実に増加し、緊急速報メールは全市町村で導入された。また、阿蘇くまもと空港が国の「大規模な広域防災拠点」に選定されるとともに、拠点施設の機能強化に向け整備を進めるなど、自助・共助・公助の観点で地域防災力の向上を進めた。さらに、公立・私立の各学校の耐震化率も上昇した。

併せて、熊本広域大水害を受けた白川水系の激特事業でショートカット区間の工事に着手するとともに、土砂災害警戒区域等の指定率の上昇、7.0kmの堤防整備や有明海沿岸道路一部区間で国の計画段階評価が早期完了等の津波高潮対策など、インフラ整備も進展した。

自主防災組織率の向上や、防災情報メールサービスの一層の普及に向け、周知広報や支援等を進めていく。また、「九州を支える広域防災拠点構想」の実現に向け、県内各拠点施設が災害時に有効に活用できるよう、各機関と訓練等を実施していく必要がある。さらに、学校施設の耐震化促進のため、設置者の理解を高めていく。

その他、頻発する災害への対応として、ハード整備の加速化とソフト対策が一体となった総合的な防災・減災対策を推進していく。



〔阿蘇くまもと空港での広域医療搬送訓練〕



〔自主防災組織の活動〕